

《郷土博物館特別展》

野田の桃源郷～漢詩文にみる岩名桃林と座生沼～

野田市郷土博物館では、令和3年10月9日（土）から特別展「野田の桃源郷～漢詩文にみる岩名桃林と座生沼～」を開催する。明治から大正にかけて、江戸川沿いの旧岩名村を中心とした一帯では桃の栽培が盛んにおこなわれており、桃の花見は野田を代表する観光名所だった。本展示では、野田へ桃花鑑賞に訪れた文人墨客による紀行文や漢詩をとおして、当時、中国の理想郷“桃源郷”に例えられた、野田の桃林と座生沼の姿を紹介する。会期は12月17日（金）まで。入場無料。

明治から大正にかけて、旧岩名村を中心に桃の栽培が盛んに行われていた。大正2年の統計によれば東葛飾郡における桃の生産量のうち、約7割が野田市域で占められていた。紀行文作家・大町桂月^{おおまちけいげつ}は、東京とその近郊の観光名所を紹介した『東京遊行記』^{とうきょうゆうこうき}（明治39年発行）の中で「野田八村の桃花」というタイトルを用い、「野田の桃を見ずんば、未だ桃花の観^{かん}を談^{だん}ずべからざる也」と記したように、当時、桃林は野田を代表する名所であった。明治時代に当地を訪れた文人墨客たちは、この桃林とそばに広がる座生沼とをあわせて中国の桃源郷になぞらえ、漢詩文によりその風情を表現したのである。

本展示では、秋場桂園^{あきばけいえん}、松田秀軒^{しゅうけん}による『観桃余芳』^{かんとうよほう}、宮本鴨北^{おうほく}の『野田観桃記』^{のだかんとうき}などといった漢詩文とともに、手紙などの実物資料とパネルを交えて展示し、野田へ桃花鑑賞に訪れた人々により表された桃林と座生沼を紹介する。

彼らは桃林や座生沼を訪れる際に野田町へも立ち寄り、当時の様子も記した。これらの漢詩文は、文学作品であると同時に、当時のまちの様子をうかがうことのできる地域資料でもある。

時代の変化によって現在は見ることのできなくなった風情に思いを馳せていただきたい。

また、特別展の開催にあわせて、学芸員による展示解説（11月20日（土）、12月12日（日））と、水海道風土博物館^{ふうど}坂野家住宅^{さかのけ}への見学会（11月6日（土））を実施する。さらに、特別展関連講演会として、土井義行氏^{どいよしゆき}（日本考古学協会会員／常総市教育委員会事務局生涯学習課専門員）による「常総の文芸開花～『観桃余芳』の世界へとつながる文芸サロンの成立～」^{しげのこういち}、重野宏一氏（世田谷区史編さん委員会近世専門部会調査員）による「近代野田の桃花を詠じた漢詩を読む～『観桃余芳』の世界～」を、12月4日（土）に野田中央公民館講堂にて実施する予定である。

問合せ＝野田市郷土博物館（野田市野田 370-8）・電話 04-7124-6851

野 田 市